

【編集者への手紙】

病院実習を終えて

先日筑波大学病院での実習の全日程が終了しました。病院実習では本当に多くの事を学び、得ることができました。充実した楽しい実習だったと思います。これから、私が病院実習を行ってきたなかで感じたことや、学んだことを書きたいと思います。

私たちの班が初めに実習させていただいたのは『生理機能検査室』でした。ここでは、実際に患者さんを目の前にして行う検査なので失敗は許されないし、ましてや「できません。」などということはできないので、事前に勉強をしていきました。また、言葉遣いや挨拶、服装にも特に気をつけるようにしました。それでも私の知識は不十分で、いつも技師さんに多くのことを教えていただきました。実際に患者さんと接してみると、難しいことがたくさんありました。特に心電図検査では患者さんに電極を着けさせていただいたため、接する時間が長く、技師さんがそばにいないこともあり(着け終わったら確認してもらいますが)、初めは本当に緊張しました。病院にいるのは子供からお年寄りまで幅広い年齢層の、心や体に病気を抱えている方たちです。技師さんは患者さんによって説明の仕方や話題を変えて、緊張している患者さんの気持ちをほぐすように検査を進めていました。そして、いつも患者さんの様子を見て、無理なく、注意しながら行っていました。この実習で、ミスをしないようにすることはもちろん大事なことです。それと同時に患者さんの立場や気持ちを考えてあたたかい気持ちで接することも同じくらい重要なのだと感じました。

次に実習させていただいたのは『細菌検査室』でした。あらゆるところにバイオハザードのマークがあること、徹底した感染予防システムがあることにとっても驚きました。現場には学校での実習とは違う、様々な感染の危険があり

ます。今日、院内感染などの問題が叫ばれています。細菌検査室での実習を通して改めて微生物の怖さを知りました。しかしながら、実習を重ねるにつれて微生物をかわいいと感じてしまうほど興味深い経験ができたと思います。また、遺伝子検査では自分自身の「心筋梗塞のなりやすさ」とか「お酒がのめる遺伝子を持っているかどうか」などの検査もさせていただき、自分のことや、微生物についてたくさん学ぶことのできる実習でした。

次に実習させていただいたのは『生化学検査室』でした。次々と導入される新しい試薬に対応すべく、実際に臨床検査技師として働き始めてからも常に向上心を持って勉強することが必要だと強く感じました。また、「至急検査は30分で結果を出す」という目標が張り出されており、正確なだけでなく迅速であることも大切なのだとわかりました。実際に患者さんが目の前にいるわけではないので、私はその存在をつい忘れがちになってしまいましたが、採血するのが難しい、赤ちゃんの貴重な血液の遠心を失敗してしまう(幸い、検体量が多かったため、患者さんに迷惑をかけるまでには至りませんでした)という経験から「検体」の向こうにいる「患者さん」の立場にたって物事を考えられるようになりました。生化学検査では、患者さんから採取された検体の持つ重みを考え、精度を保ちながら、早く正確に結果を伝えられることがとても大切だと学びました。

次に実習させていただいたのは『血液・一般検査室』でした。一般検査では主に尿検査を行っていて、尿の成分検査と尿沈渣について学ばせていただきました。毎日膨大な量をこなしていて、技術がないとできないと感じました。実際に見せてもらい、説明もしていただいたのですが、変形しているものも多く、疾患も考慮しながら決定していくのは難しかったで

す。血液検査では自分たちで採血をし、血算と血液像の検査をしました。自分たちで白血球分類や、血算の結果について考察してみることによって理解が深まったと思います。血液像は機械ではなく、人間の技術や経験に頼ることが多いのだということを実際に学び、学校での授業で苦労して覚えた白血球分類がどれほど重要なのかということがわかりました。

最後に実習させていただいたのは『病理検査室』です。細胞診での実習では初めてスクリーニングを体験しました。パパニコロー分類のクラス までは細胞検査士の診断だけで判定が出来ます。「正常であること」の診断は非常に難しいものだという事を知りました。病理組織検査では、一つの標本について自分で染色法を考えて、結果に導くことができるよう、実際の検査の流れを一人で行いました。一人と言っても技師さんに多くを頼ってしまいましたが、手術で切り出された臓器がどのように検査されていくのかという流れを体験でき、また、疾患についても勉強できました。そして何よりも、実習とはいえ1人の患者さんの検体を検査から判定まで取り扱うことによって、患者さんについてより深く考えるようになりました。

病院実習をする前は、学校での実習との違いは実際に患者さんが目の前にいるので失敗できないことくらいにしか考えていませんでしたが、病院実習を通して、患者さんの気持ちを考え、患者さんの目線に立って考えるということの大切さを学びました。患者さんに直接接するのではなく、検体や臓器の一部のみに関わる場合においても、ただ検査をこなすというのではなく、その患者さんの命に関わっているのだという意識と責任と誠意を持って私にできる限りのことをしたいと思います。また患者さんと接するときには、患者さんの不安を取り除けるようにあたたかい気持ちで接するとともに、少しでも負担を減らせるように技術をつけていきたいです。

私は、患者さん、家族の方々、技師さんや多くの医療技術者の方々のご協力やご好意を得て、すばらしい実習ができたと思います。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当

にどうもありがとうございました。

医療技術短期大学部
衛生技術学科3年
有賀理砂